はじめに

日本とアジアの伝統音楽・芸能は，グローバル社会における共生や自国の文化の再発見，地域アイデンティティの共有や新たな創出が求められる今日において，そのコンテクストの面から文化資源としての価値が認められつつあります。また多様な価値を認めあいながらコミュニケーションを促すこれらの音楽・芸能それ自体の持つ特質が，昨今の文化芸術に社会包摂の機能が求められる動きの中で見直され，重視され始めています。

一方で，アートマネジメント従事者からは「日本の音楽・芸能，アジアの音楽・芸能をどう扱ったらいいのか？」「ほかの分野とどう違うのか？」という疑問から，関心がありながらもなかなか踏み込めないという声が聞かれます。また伝統音楽・芸能の実演者からは「アートマネジメントの考え方を自分たちの活動に取り入れられるのか？」と疑問視する声も聞かれます。これらは日本とアジアの伝統音楽・芸能が，楽器音響，実演形態の面でも西洋の音楽・芸能とは大きく異なること，その一方で，アートマネジメントの分野ではこれまでほとんど検討の対象とされてこなかったことに起因すると考えられます。

以上より，日本とアジアの伝統的な音楽・芸能の基礎的な知識を習得したうえで，総合的に公演等を企画・運営できるアートマネジメント人材の育成は急務であると考え，東京音楽大学では「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成～『伝統×伝統』，『伝統×現代』，『伝統×地域』のクロスオーバーによる新たな価値の創出を目指して～」（2019 年度～2021 年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」採択事業）を実施しました。事業の受講者は，文化行政や文化施設関係者から，伝統音楽・伝統芸能団体，教育機関，実演家，ベテランのアートマネジメント従事者，学生まで多岐にわたり，事業をとおして，伝統音楽・芸能に対する関心の高さとジャンルの幅広さ，そして全国的にこの分野のアートマネジメント人材育成が求められていることが明らかになりました。

本書は三ヵ年の事業の集大成に位置付け，想定している読者は上記の受講者に見られる幅広い層です。制作にあたっては，事業を展開する過程で新たに浮上した課題や，講師・受講生の要望も参考に構成と内容を検討し，以下の三部構成としました。なお，執筆にあたっては事業内の各講師による講座や対談等を中心に，さらに本書の構成に沿って新たなトピックの執筆を依頼しました。

■第 1 部：伝統音楽・芸能のマネジメントの概要
伝統音楽・芸能を捉える視点，関連する政策・法律・制度，支援機構等について体系的に示した。

■第 2 部：多様な発信と場の広がり
伝統音楽・芸能の場の広がりとして，劇場・音楽堂，地域，創作，ワークショップ，映像・動画，海外等の視点から様々な事例を示した。

■第 3 部：コーディネーターの役割，ネットワークの構築
これからの伝統音楽・芸能のマネジメントに必要なコーディネーターの役割や，地域や芸能等でのネットワーク構築について，様々な立場から展開をまとめた。

本ハンドブックを，伝統音楽・芸能のアートマネジメントに少しでも役立てていただき，またあわせてこの分野のアートマネジメントの議論のきっかけとなり，今後の発展につながると嬉しく思います。

日本とアジアの伝統音楽・芸能のための
アートマネジメント人材育成事業
統括　福田裕美

CONTENTS 目次

はじめに……3
冒頭インタビュー 伝統音楽・芸能のアートマネジメント ——これまでとこれから……6
アートマネジメントにおける日本とアジアの伝統音楽・芸能……12

第1部 伝統音楽・芸能のマネジメントの概要

1 政策・法律・制度

1 文化財政策における伝統音楽・芸能の位置づけ……18
2 伝統音楽・芸能のマネジメントにおける現状と課題……22
3 「舞台公演」と著作権法について ——実演家の権利を中心に……26

2 伝統音楽・芸能の推進と支援

1 近年の文化政策の動向 ——文化芸術基本法の成立，文化庁移転・組織再編，文化財保護法改正……30
2 芸術はだれのもの？ ——主体性と資金と支援をめぐって……34
3 全日本郷土芸能協会の取り組み……38
4 地域における助成金活用の取り組み ——乙女文楽の実践……42

第2部 多様な発信と場の広がり

1 劇場・音楽堂からの発信

1 対談 「渋谷能」の制作 ——「渋谷能」の講座より……48
2 伝統を踏まえた邦楽公演の新しい見せ方……54

2 地域に根ざした活動

1 公立ホールにおける邦楽公演の実例……58
2 地域に根ざす劇場の伝統芸能支援 ——継承と創造……62

3 あらたな創造

1 現代音楽と能……66

2 ジャワガムラン ——創作公演の基本知識と事例紹介……70
3 未来につなげる伝統芸能の創造 ——淨るりシアターの試みと「アジア芸能の未来」を通して……74

4 アウトリーチ・ワークショップの実践

1 伝統音楽・芸能のアウトリーチ・ワークショップをとらえるために……78
2 伝統音楽・芸能のアウトリーチ・ワークショップ実践のための論点整理……80
3 学校における伝統音楽とアウトリーチ・ワークショップ……81
4 グランシップ伝統芸能普及プログラム……82
5 地域に向けた民俗舞踊講座……86
6 楽器を使用したワークショップ……90
7 モノを通してコトを学ぶ ——博物館の総合型ワークショップ……94

5 映像・動画による発信

1 国立民族学博物館における芸能の映像記録作成と活用……98
2 オンラインを生かして伝統音楽を現代につなげる
——「箏をめぐる現代（いま） ～オンラインで魅せる楽器」を通して……102

6 海外における伝統芸能

1 女流義太夫の海外公演実施の経験から……106
2 海外における日本音楽 ——ブラジルに見られる尺八の国際化について……110
3 伝統音楽・芸能の場の広がり ——インドネシアを例に……114

第3部 コーディネーターの役割，ネットワークの構築

1 民俗芸能コーディネーターの役割……120
2 国内・海外の地域伝統芸能の招聘公演を支えて 61 年目の指針……124
3 創造的な復興と地域フェスティバルの設計図 ——現代の視点で芸能の魅力を引き出すために……128
4 対談 アジアの伝統音楽・芸能公演の現在と未来 ——私と公の間から……132
5 日本とアジアの芸能ネットワークづくり ——オンライン芸能村……138

おわりに……142

事業の記録……143
索引……145
執筆者一覧……148